

1 グループ研究主題

生きる力を育む小中連携の在り方について
～「学習指導」、「生徒指導」、「特別支援教育」の観点から～

2 主題設定の理由

変化の激しい社会を担う子供たちに必要な「生きる力」を育むため、確かな学力、豊かな学力、豊かな心、健やかな体の育成が学校教育に求められている。また、授業の質的改善やLD・ADHD等、学習に集中することが難しい児童・生徒への指導上の課題もある。さらに、いじめや不登校等、生徒指導上の課題も発生してきている。

そこで、同じ地域に生活する児童・生徒の健全育成や学力向上を目指し、小・中学校間で情報交換をしながら、連携して指導に当たっていくことは有意義であると考えます。

3 研究の視点

（1）学習指導の充実を図る→A分科会

- ① 確かな学力（基礎・基本、学習のしつけ、学ぶ意欲等）の育成を図る指導
- ② 小学校と中学校の円滑な連携

（2）生徒指導の充実を図る→B分科会

- ① 基本的生活習慣の確立
- ② 配慮が必要な児童・生徒への指導・支援（不登校傾向、保健室から見た現状等）
- ③ 小学校と中学校の円滑な連携

（3）特別支援教育の充実を図る→C分科会

- ① 個々の教育的ニーズに応じた指導・支援
- ② 小学校と中学校の円滑な連携

4 研修会の実際

（1）実施日時

令和元年7月1日（月） 14:00～16:40

（2）参観授業及び授業内容

① 1～4年：各教室で担任による授業

② 5～6年：各教室で甲南中学校教諭とのTT授業

学級	場所	教科	単元名
5年1組	パソコン室	総合的な学習の時間	パソコンで生活を豊かに
5年2組	教室	国語	夏の夜
6年1組	教室	社会	3人の武将と天下統一
6年2組	教室	外国語活動	What time do you get up?

③ 特別支援学級：知的、自閉・情緒、肢体の3学級合同による生活単元学習の授業

(3) 分科会報告


① A分科会 (学習指導)

甲南中学校区共通実践事項・・・5分前行動, 3分前着席, 1分前黙想	
課 題	協 議 及 び 改 善 策
<p style="text-align: center;">小 学 校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを言葉にできない児童への対応 (個人差・個別化) ・ 忘れ物や記名忘れへの対応 ・ 基本的学習の進め方の指示 ・ 基礎・基本の定着 ・ 家庭学習の自主・意欲化 <p>※ 中学校で困っていることや実態を小学校に下ろしてほしい。実態 (課題・予習・授業の流し方) が分かると小学校での指導に生かしやすい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭環境・担任からはたらきかけで学習意欲が高まることもある。生活リズムが確立できるようにする。 ○ T T等でその児童にあった課題を出す。 ○ 忘れ物や記名忘れに対しては, 継続して指導していく。家庭との連携を密にする。 ○ 学習の仕方・家庭学習のルール等, 統一した繰り返しの指導を徹底する。 ○ 宿題・家庭学習の習慣化を図る。 ○ 児童の自己肯定感が高まるよう, 宿題・家庭学習の内容の質と量のバランスに配慮する。 ○ 授業最後の振り返りと家庭学習への導きを進める。 ○ 小中学校の交流 (授業参観等) でお互いの学校の様子を見る機会を増やす。 ○ 専門性を生かした中学校の先生とのT Tを進める。 ○ 中学校では, テスト毎に分野を絞って追試している。数回個別指導をしている。また, 生徒自身でやり直しをするようにはたらきかけている。 ○ スケッチでは, 図工・美術専門の指導主事を招聘し, 教職員対象・高学年児童対象の研修を実施している。カリキュラムマネジメントが必要である。 ○ 学業指導の徹底のために, 聞く・聴く姿勢を児童生徒に育てていく。 ○ 小中連携を一步前に踏み出すための提案 <ul style="list-style-type: none"> ① 中学校の先生による小学校での出前授業 ② 小学生と中学生との合同の授業の実施 ③ 授業を通じた授業研究会 ④ 中学校への一日体験入学 ○ 持続的・恒常的な小中連携を進める。 ○ N R Tの結果をもとにつまずきやすい傾向を把握し, 授業の改善・工夫につなげていく。 ○ 9年間を見通した家庭学習の手引きが作成できるようにしていく。
<p style="text-align: center;">中 学 校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 約分等の簡単な暗算力の定着 ・ 基礎・基本の定着 ・ 提出物の期限・ノートのまとめ方への指導 ・ 忘れ物の多さ ・ 家庭学習の充実 ・ 絵を描くことの習慣化 	

② B分科会（生徒指導）

課 題	協 議 及 び 改 善 策
<p style="text-align: center;">小 学 校</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廊下や階段の過ごし方 ・ 登校しぶりや友達との関わり に困難さ等の特性のある児童への対応 ・ 休み時間と準備時間の区別 ・ 生活習慣の乱れによる遅刻 ・ 忘れ物の多さ ・ 家庭内のSNSのルール作り ・ 中学校に対しての不安感を軽減するための方策 ・ 情報交換の場の充実 ・ 課題の出し方や部活動等の、 授業以外における系統的な指導の在り方 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登校しぶりのある児童に対しては、家庭との連携や学校全体での情報の共有化を図り、ケース会議を開いている。 ○ 友達との関わりに困難さのある児童に対しては、対応する際の流れについて共通理解を図り、クールダウンできる場所を確保している。 ○ 友達にけがを負わせた際、学校管理下で発生した場合は、独立行政法人日本スポーツ振興センターの災害共済給付の対象となる。学級担任が両方の保護者に説明し、けがを負わせた方には相手方に連絡するよう促している。 ○ 児童生徒の1日の生活リズムを振り返り、習い事が負担となっていると思われる場合は、精選を本人や保護者に促していく。 ○ 遅刻のときには保護者が学校に連絡するよう、しっかりと決めておく。連絡する意義を保護者に伝える。 ○ 家庭と学校で正反対の態度に表す児童生徒がいる。 ○ 不登校の児童生徒がどの段階にあるか共通理解を図る。 ○ 小中学校の円滑な連携のための時間が、なかなか確保できない。 ○ 中学校が新入学生の状況について聞きたいので、情報交換ができればよい。 ○ 中学校入学説明会で、新入学生に対して授業をしてもらう機会があるといい。 ○ 保護者とのつながり（糸）を切らないように粘り強く対応していく。 ○ 学校管理下でのけがは予見できたかが争点となる。 ○ 生徒指導は全体的な取組と個別の指導の両輪。 ○ 児童生徒の個性の伸長を図りながら、生徒指導を進めていく。 ○ 今回の分科会における、ファシリテーターを置いてアイスブレーキング・話し合いを進めていく姿は、理想の姿であるといえる。
<p style="text-align: center;">中 学 校</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自我の芽生えによる状況の複雑化への対応及び連携 ・ 不登校生徒への対応 ・ 支援体制の確立と遂行 ・ 生徒が抱えている問題の適切な把握 <p>※ 規範意識の高さや礼儀作法の正しさを継続していくために、小学校での指導内容や指導方法を知りたい。</p>	

③ C分科会（特別支援教育）

課 題	協 議 及 び 改 善 策
<p style="text-align: center;">小 学 校</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入級指導への保護者の理解 ・ 通常学級にいる合理的配慮を必要とする児童 ・ 支援学級在籍児童と交流学級児童との関わり ・ 在籍児童の実態把握 ・ 個に応じた指導 ・ 学力向上の時間の確保 ・ 学習意欲を高める指導 ・ 小中学校の情報交換の機会の設定 ・ 個に応じた進路 ・ 効果的だった指導や支援について、本人だけでなく家庭状況を含めた確実な引継 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童や保護者の中学進学に対する不安が軽減できるよう、事前の支援学級の参観等を計画する。 ○ 中学校卒業後の進路も見据えて、早い段階から保護者と一緒に考えていく。 ○ 情報交換を密にして、児童がよりよい学校生活を送れるようにする。 ○ 機を捉え、必要に応じた情報交換や情報共有の場を設定したい。 ○ 学習面で支援を要する児童に対して、支援員の数が足りないという現状がある。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 早い時期に、特別支援教育の在り方を説明する。 ○ 支援学級に在籍していた生徒の進路状況を知らせることで、児童生徒や保護者の不安が軽減できるようにする。 ○ 支援が必要な児童生徒への声かけや支援方法は、慎重に、丁寧にしていく。 ○ 交流学級の生徒たちにも、支援を要する仲間への心配り等、「受け入れる環境作り」を促す。 ○ 支援を要する児童生徒に、どのような配慮が必要か、担任・学級の児童生徒にも周知させる必要がある。 ○ 生徒が支援員の支援を受け入れやすくするため、様々な工夫が必要だと思われる。
<p style="text-align: center;">中 学 校</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常学級に在籍する、支援が必要な生徒の増加・多様化への対応 ・ 支援学級に在籍する、不登校傾向のある生徒への登校刺激の与え方 ・ 支援学級の在籍生徒に対する支援の在り方 ・ 職員・保護者・関係機関との連携の在り方 ・ 3月下旬に開かれる「小中連絡会」以外での連携の工夫 	